

報 告 書

開催日時	令和 7 年 6 月 27 日 14 時 00 分 ～ 15 時 40 分
開催場所	市役所本庁舎5階 第一委員会室
担当議員	市民福祉：寺岡まゆみ委員長、堀江克己副委員長、小島まさひろ委員、高橋伸也委員、栗山香代子委員、松本樹影委員、神子雅人委員
参加人数	11名（地域包括支援センターから各地区から1名ずつ ※南毛利は2名）
報告事項	令和7年度厚木市予算について （市民福祉常任委員会所管の高齢者施策事業を中心として報告）
意見交換 （テーマ）	高齢者の孤立対策と見守り支援について
参加者 からの 質問・ 意見等	各地域包括支援センターから、地域の特徴や状況、活動、課題等に対する意見や市への要望があった（詳細は別紙のとおり）。
意見書等 の検討が 必要な 意見等	特になし

令和 7 年 7 月 18 日

令和 7 年度 第21回議会報告会

市民福祉常任委員長 寺岡 まゆみ

別紙

各地域の状況についての紹介

厚木包括)

・職員 5 名。中町、寿町、吾妻町、駅近くで坂もない。便利な反面、健康診断データでは糖尿病が非常に多い。歩かなくても買い物も病院も行ける。高齢者一人暮らしでも総菜が買いやすく、料理しなくても好きなものが食べられる。食事の指導、運動の機会をつくらなくてはならない。厚木北公民館やアミューもあり、運動教室等に力を入れている。昔遊びフェスティバルを開催予定。モルックで高齢者も巻き込み、世代に関係なくできるイベントをやっていききたい。

厚木南包括)

・本厚木駅南側エリアで、平坦で便利。買い物も受診も困らない。土砂災害の危険はないが川の氾濫が心配。高齢化率は低いが今後急激に上がると予測される。駅近くは高層マンションが多く地域関係が薄い、湘南厚木病院近くのひばり団地は地域の関係性が良く見守りができている。

・旭町はミニデイサービスも多く民生委員の声かけもあり多く参加している。包括と民生委員との関わりもよく民生委員の来所相談多い。包括には必ず誰かいて対応している。

依知包括)

・市の東北東、南北に長く、相模川に架かる橋を渡れば相模原市、海老名市、座間市がある。社会資源がなく介護保険サービスに苦慮している。高齢化率は 26% で 8500 人。職員は 7 名。障がい相談支援センターが同じ建物にあり、連携している。

・かなちゃん手形を利用できるが、バスが通る国道 129 号に行くまでの歩行力がない人が多く、小さいバスがあるといいとの声が多い。

・依知南にはスーパーがない。移動販売も

したいが場所がない。

・担い手不足も課題。ボランティア団体が一つあるが、高齢で支援を受ける側になっている。第二層協議体のメンバーも高齢者である。

睦合包括)

・睦合北と睦合西の 2 つの公民館。

・睦合北は、鳶尾山、中津川の自然、歴史は修験道場の八幡氏、清源院、皇大神宮など。人口は約 1 万 200 人、4700 世帯、高齢化率は 27.03% で、人口減少だが 65 歳以上は増えている。交通の便が悪い。

・睦合西は、市の中心に位置。人口約 9800 人、4440 世帯、高齢化率は 24.6% だが、増加傾向である。

睦合南包括)

・妻田東西南北を担当。高齢者は 5300 人。昭和 45～55 年に土地を買った形で、あと 10 年後には 75 歳以上が一気に増える。

・12 の自治会、4 つの老人クラブ、24 名の民生児童委員が活発に活動している。市街地に近く利便性高く、商業施設も多い。

・1 日 100 本以上の路線バスあり、かなちゃん手形を利用。

・地域診断で見えた課題は第二層協議体で話し合いを進めている。高齢者から「どこにつどいのあるのか」との相談があり、6 年 8 月に活動一覧表を作った。こども・高齢・障害と幅広い参加で意見をいただき民生委員や自治会の協力で敬老事業に合わせて睦合南地区の 75 歳以上の皆さんに配ったところ、大変喜ばれ参加者も増えた。この一覧表は定期的に更新したい。コロナで休止していた認知症カフェを 6 月 21 日に再開、20 以上の事業所の協力で 28 名が参加。今後も地域の身近な相談窓口になれるように努めていきたい。

荻野包括)

・6 地区で、高齢者人口 7200 人。下荻

野、みはる野は高齢化率低いが、昭和 40～50 年代にできたまつかげ台、鳶尾団地が高齢化率 40%。荻野地区は、高低差が 100m あり運動量が増えるが、ちょっとしたけがなどで外出控えが起きやすい。

・まつかげ台、みはる野、鳶尾はコミュニティ交通や路線バスが走り利用者多いが、上荻野方面はバスが少なく高齢者の免許返納ができないのが課題。

小鮎・緑ヶ丘包括)

・公民館が 2 つあるが、緑ヶ丘と飯山は地域特性が異なる。職員は 6 名、総合相談業務、介護予防支援事業など。

・緑ヶ丘地区は開発により整備された住宅、県・市営住宅、ドラッグストア、コンビニ、クリニック、スーパーがあり、バスも 10 分おきにある。

・王子は県営住宅と戸建てが並び、坂が多く高齢者は買い物や受診が大変。団地は生活困窮の高齢者、また体の状況により移動が不便など、身寄りがないために発生する諸問題がある。

・小鮎地区は上古沢、下古沢、飯山は農村地区、自然豊かな環境で昔からの住宅多い。飯山温泉観光旅館も有名。エリアが広く公民館に行くのも大変。飯山南は開発で住宅多い。宮の里は宮ヶ瀬ダム建設で清川村からの転入。高齢化率かなり高く、市と県と連携し伴走支援事業をしている。

玉川・森の里包括)

・昔ながらのコミュニティーの玉川と、40 周年の森の里はかなり異なった地域。それぞれ人口は少ないが、高齢化率は、玉川 34.86% で市内 2 位、森の里 42.56% で 1 位。

・森の里地区は急速な高齢化で、10 年後には 59.4%。65 歳以上が 6 割、75 歳以上が 45.7% との推計がある。一方で市内、県内でもモデル地区となる地域福祉が充実している。小学校の空き教室を利用した

「陽だまりの家」、有償ボランティア「もりの応援隊」、一人暮らし高齢者への「安心コール」、地域循環バス「森の里ぐるっと」など行政主導ではなく、地域主導の先駆的な取組がある。しかし、現在支えている人が 10 年後に支えられる人になる。今後の担い手が重要課題である。

南毛利包括)

・人口 3 万 8000 人のうち 9100 人が高齢者で高齢化率 24%。絶対数が多く相談件数も多い。相談の多くは家族、次いで医療機関やケアマネジャーから。公民館とは連携あり人事異動後も適切に引き継がれ、良好な関係。地域のミニデイサービスに積極的に参加し、講話や健康相談、介護予防教室や認知症カフェ、コープでの出張相談を実施し、総合相談につながることもある。

相川・南毛利南包括)

・5 名で運営

・公民館、地域福祉推進委員会は 2 つある
・南毛利南地区は愛甲石田駅周辺エリア、国道 246 号もあり、駅まで徒歩圏内。青山学院大学があったためワンルームのアパートが多い。生活保護等低所得の方と昔から住んでいる方がいる。

・相川地区は昔からの地縁組織、自治会、老人会の活動が活発。ミニデイサービスは地域が協力的で地域の形成ができています。第 2 東名ができて物流センターが増え発展している。南毛利南より人口が多く、高齢者も多い。

・対照的な 2 地域だが、どちらも地域と連携取れている。今後も地域行事に積極的に参加し、地域に愛されるセンターを目指していく。

議会報告の質疑応答

令和 7 年度予算について、

高橋伸也議員より報告。(略)

包括)通いの場交付金は今年度から金額が上がった。今、申請は何か所から出ているのか。

議員)把握していない。

包括)かなちゃん手形は8月まで購入できて来年の6月まで使えるが、その後は。

議員)検討中。タクシー利用券もある。

包括)通いの場交付金は開設時だけだが、継続した支援の検討は。

議員)御意見として。

意見交換

議員)相談はどのような方から？

包括)何年か前は地域包括支援センター自体知られていなかったが、地域に浸透してきた。その分、介護以外の問い合わせが増えた。引きこもり、障害、保育園入所など、なんでもかんでも地域包括。問題は重層化、多様化している。以前は介護や、民生委員からの相談に限られていた。

包括)相談者は多い順に、対象者の家族、医療機関、ケアマネジャーからだが、医療機関や市役所から促されて来る方も多い。介護保険は先の道筋が経つが、その他に障がい、生活困窮、引きこもりなど、どこにもつながらない方がいて、苦慮する相談内容が多い。

包括)高齢化率高く、高齢者の相談が多い。令和6年度は新規が179件、うち一人暮らし58件、二人暮らし82件、両方で78.2%。単身、核家族が進んでいる。

包括)市民が市役所へ行くと「包括へ」となる。違うんじゃないか。すみ分けができていない。

包括)一人暮らし老人登録すると、理美容券がもらえる。受付は行政だが、状況確認は包括。理美容券が欲しくて登録する。登録に必要な緊急連絡先や既往歴を聞くが教えていただけないこともあり、本来の目的からずれてしまっている。

議員)理美容券は、以前は1回1回公民館にもらいに行くことが運動になるから、まとめて渡さないということだったが、最近は自宅に送られている。

包括)外出目的のはずが、郵送なので、外出目的ではなくなっている。状況を詳しく聞き取り台帳作り市に提出するが、市は緊急事態の時に見るだけ。包括の仕事が多い割に利点がどこにあるのか分からない。

議員)地域の特徴にどう対応しているか？

包括)糖尿病、運動不足が多い。行政だけでなく、民間トレーナーと一緒に、アミューで運動教室開催。吾妻町は集会所があり民間トレーナーに来てもらい体操などの取組。今度NHKラジオ体操来る。厚木北はみんな乗り気である。

包括)第二層協議体と自治会とで連携が取りづらい。自治会長に包括の活動を知ってもらいたい。

包括)第一層に意見を上げるためにはどうすればいいのかななどの意見が第二層から出ている。社会福祉協議会の生活支援コーディネーターは配置されているが機能していない。関係性を考えないと生活支援体制整備事業はうまくいかない。

また、包括には事務局費として市からお金をいただくが、第二層の予算が少ない。企業協賛金で冊子を作ったが730部しか作れなかった。

包括)介護予防に力を入れていて自主グループを立ち上げ、予防体操教室したいが場所がない。公民館は倍率がすごく高い。貸し事務所だと何万円もかかる。

包括)依知は広くて移動が課題。移動販売のこともなかなか進められていない。自治会に話を聞いてもらい協力してもらいたい。

包括)緑ヶ丘3、4丁目は集合住宅が多く、民生委員の欠員が多い。相談者の情報

共有が難しい。一人暮らしで生活困窮、身寄りがないなど課題多い。民生委員も高齢が多く、民生委員児童委員協議会も数人でやっている。人員を厚くできないか。

包括)自治会に重荷を持たせるのは大変なことは理解できる。

玉川・森の里地区は高齢化が進み、認知症が多い。第二層協議体でオレンジリングを持つ人を増やそうと小学校の授業で認知症サポーター養成講座をしている。高齢者について幅広い世代に知ってもらいたい。高校生、大学生にコミュニティーに参加してもらえそうな取組が必要である。

議員)公民館との連携は？

包括)緑ヶ丘には歩いて行けるが小鮎は距離がある。包括支援センターをもう1カ所設置してほしいとの声や、公民館に包括職員を配置するなど連携できないかとの意見がある。

包括)地域福祉推進委員会を通じて、ラジオ体操等催し物のアナウンスは公民館だよりも中心だが、情報がたくさんあり載せてもらえなくなってきた。SNSだとできるが高齢者はやはり公民館だより。優先的に載せてもらえとうれしい。

包括)公民館職員は異動があり、数年で人が変わってしまう。情報が包括に上がらず、うまく連携取れていない。公民館で認知症の人が来て困ると包括に電話がくる。

包括)愛甲公民館は包括の周知ができている。公民館まつり等に「来てほしい」との連絡があり、公民館の自主事業の講師をするなど連携取れている。

議員)支援・事業での課題や市に期待するのは？

包括)成年後見人制度の重要さが増している。高齢者の孤立、独居で身寄りがなく認知症でお金の管理ができない。市長申立て

で後見人がつくまで、前は半年だったが今は1年かかる。その間のお金の管理を包括がしていることは問題である。後見人がつくまで誰かのサポートが必要。サポート事業の強化を。

包括)1、基幹型地域包括支援センターの設置。関係部署との連携が複雑であり、一元的な体制整備が必要。2、福祉部署の再編と電子申請の推進。担当課が分散し、時間がかかるため、電子申請や窓口の一本化などによる利便性の向上を望む。3、緊急通報システムの見直し。現状は固定電話が前提。携帯電話が多いが利用が難しい。見守りセンサーなどの今の暮らしに合った仕組みの検討を。

包括)福祉総合支援課の専門職の配置見直しを。土日に虐待相談があると市も社協もお休みで包括に通報が入る。「市と協議」する事になっているため市に電話したが、納得のいく対応ではなかった。専門職が配置されれば協議できて助かる。

包括)虐待の相談がかなり多い。包括は権限がないので措置できない。市の職員にお願いしたいが、異動で引継ぎがされていなかったことがある。基幹型にして、ずっと分かる方の配置を希望。

包括)市はこれが包括なのかどうかというところをよく検討すべきである。以前から基幹型にしようと言っているが、市は動いてくれない。市は土日旗日も休みで全部包括になる。委託をさせるなら市にはきちんと受けてもらいたい。